



94. ベニズワイガニ *Chionoecetes japonicus* Rathbun 図版38

英名 red queen crab, red snow crab

露名 красный краб-стригун
クラスメイ クラブ ストリグン

地方名(北海道) ベニズワイ

漢字 紅楚蟹
ずわい

【形態】 鰓域*はズワイガニよりも側方に膨らむ。鰓域の側縁には顆粒が並び、その列の後端には1本の棘*がある。甲面の後縁部には顆粒状の突起列が2列に並び、両突起列は側縁で交わり1列となる。ズワイガニと異なり甲面後方の傾斜が急で、歩脚*の長節は細い。体色はオレンジ色から朱紅色。甲幅*は雄で約170mm、雌で88mmになる。

標準和名*は、1949年にベニズワイと付けられたが、現在はベニズワイガニと呼ぶのが一般的となり、多くの図鑑などで採用されている。

【生態】 日本海、オホーツク海、犬吠埼から北海道の沖合に至る太平洋に分布する。生息水深はズワイガニよりも深く、日本海では400mから最も深い記録で約2,700mと、広範囲にわたり、500~1,700mに多い。

初めて性成熟*するサイズは海域によって異なり、北海道沖の日本海では、雄で甲幅75mm、雌は55mm、山陰西部ではそれぞれ85、75mmと報告されて

いる。一方、富山湾では雌は60mmなのに対し、雄は70～100mmと範囲が広く、雄は成熟*サイズの個体による変異が大きい。これら以外の海域でも、初成熟サイズのぼらつきは雌で小さく、雄では大きいようである。

産卵期は12～翌3月。抱卵*して2年後の2～3月にふ化し、次の産卵はその後すぐに行われると推定されている。しかし本州西部日本海では、産卵周期は4年で、生涯の産卵回数が2回であると報告されている。

卵は外径0.58～0.88mm、平均0.68mmの楕円形。雌1個体当たりの抱卵数*は2万～10万粒で、大きい個体ほど多い。ふ化した幼生*はプリゾエア*と呼ばれ、水温2℃では30分～1時間後に脱皮*して第1期ゾエア*になり、第2期ゾエアを経てメガロパ*となる。幼生の期間は3～6カ月と推定されている。メガロパは脱皮した後に着底*し、成体*の特徴を示す第1齢期*の稚ガニとなる。

年齢と成長との関係はよく分かっていないので、稚ガニからの脱皮の回数（齢期）と甲幅との関係が成長の目安となる。北海道沖の日本海では、雄は7齢期で平均甲幅29mm、8齢期で39mm、9齢期で53mm、10齢期で68mm、11齢期で84mm、その後は脱皮ごとに約10mmずつ成長し、18齢期で150mmとなる。雌では、7、8齢期までは雄と同様で、9齢期で50mm、10齢期で63mmである。